

釣れ釣れなるままに

1993年思い出の釣行記 PART. 7

ひん口憤や



鹿島釣狂

釣遊会第7回大会

☆開催日	平成5年11月21日
☆開催場所	井寒台入口～様似港
☆入釣場所	エンルム岬
☆潮	干潮 01:38 43cm 満潮 09:16 116cm
☆天候	暴風雨波浪警報 南東の風→西の風
☆釣果	アブラコ 420 mm 3 ハゴトコ 12 重量 188 0g
☆成績	点数 608 点 身長優勝 順位 8 位 累計点 36 点 (⑤11⑩⑥⑦13⑧) 年間 7 位

美唄市で開催された全道教研も終わり、忙しい日々が終わったかに思えたが、次から次へと仕事が沸いてくる。ストレス解消のためにもと思うのだがあいにくの天気予報である。青年教職員の交流会には出席せず、支部戦術会議出席の後、サンマ5本を買い準備をする。今回は前日までに少しずつ準備していたので当日は余裕がある。

リュックのホックを高橋馬具店で直したが丁寧な修繕で代金も安い。前回折れた竿をカナダ屋で直してもらったが、代金4000円なり。前回直したのを含めて1本買ってよかったのではないかという思いがある。

「北海道のつり」を見て井寒台、幌島あたりの地形を頭に入れてバスに乗り込んだが今年の夏の天候ではどちらも駄目とのこと。先週も時化のため井寒台には沢山の釣り人が入り、魚はいなくなったとのこと。幌島も本日の波風ではとても釣りどころではないという。井寒台では大前氏の「いませんか」との問いかけに誰も手を挙げる者がいない。その間にもバスはどんどん目的地に向かって進み、幌島を過ぎ、鵜苫漁港で3、4人降りる。塩釜トンネルで前野氏、様似漁港入口で嵐氏が下りた。私は結局、他の仲間に誘われるように終点である会所前で降りることになった。

先頭の吉井氏に率いられて何人もがゾロゾロとついて行く。舟揚場のすぐ右に釣り人がおりその隣で竿を構える。以前、金井氏が嵐の中でよい釣りをしていた便所前辺りは沢山のキャップライトの光が動いている。すぐに、手前に打ち込んだ竿に当たりがあり上げてみると大ドンコである。その後もドンコがドンコドンコとやってくる。隣の釣り人が、以前はここもよかったのだが前方に防潮堤ができてから砂が乗って駄目になったということである。



3 : 0 0 仲間の様子を伺うと、舟揚場で高橋、西川氏がチビソイとハゴトコを手にしていた。エンルム岬の裏に出る道を聞き、様子を見に行くと波が死んでおり釣りのできる状況である。早速、道具を移動し、F 点の舟揚場の先で竿を出す。エンルム岬の崖が背後に迫り、岩が崩れ落ちでもしないかと思える恐ろしいような場所である。まだ潮が満ちてきていないのでカケアガリの岩

まで出てチョイ投げする。すぐにハゴトコが釣れて坊主は免れた。次はカジカである。しかし、釣れるのはハゴトコ、ハゴトコ・・・である。

5 : 0 0 頃左に打っていた竿によいアタリがあり、ゴツゴツと頭を振るのでアブラコである。V字に切れ込んだわずかな溝の海水を滑らすように40cm超えのモノを手にした。後はカジカ・・・。しかし、釣れるのはやっぱりハゴトコ、ハゴトコ・・・。潮も満ちてきてその盤には乗れなくなったので左方向に移動する。舟揚場では秦野氏がやっている。見るとカンカイがズック魚籠に収まっている。そのカンカイでもいいのだが。狙いをカンカイに絞りハリを15号に落としてイソメをつけ遠中近と投げ分けるがやっぱり釣れるのはハゴトコ・・・。

9 : 3 0 まで粘るが来ない。竿を片付けバスに戻るとそのバスが見当たらない。慌てて国道に出て探し回る。もう一度港の方に行くとバスが止めてあった。ぎりぎりセーフでホッと胸をなぜおろす。前野氏はボウズとのことで、年間で嵐氏に抜かれてしまった。

皆、釣りモノがなく、私は42cmのアブラコで身長優勝を果たした。総合優勝者は800点に届いていなかったもので、20cmのカンカイやアカハラ、カジカの嫁が1匹でもいれば総合優勝だったのにと悔やんでも仕方のないところである。ひ~~~~口惜しや。

年間成績

1	4 / 18	弁慶茶屋	871	5位
2	5 / 02	弁慶茶屋	903	11位
3	6 / 20	エンドモ岬	904	10位
4	7 / 04	オンコの沢	1035	6位
5	9 / 26	春立	878	7位
6	10 / 17	山中	789	13位

7 11 / 21 エンルム岬 608 8位

累計点 7回 60点 $\div 7 = 8.6$

5回 36点 $\div 5 = 7.2$ 7位

7回平均 5988 $\div 7 = 855$

5回平均 4591 $\div 5 = 918$